

平成17年岐阜県観光レクリエーション動態調査結果概要

| | | |
|--------------|------------|---------------|
| 観光客数〔推計実人数〕: | 50,612千人 | (対前年比 +8.9%) |
| 日帰り: | 46,029千人 | (対前年比 +9.0%) |
| 宿泊: | 4,583千人 | (対前年比 +8.3%) |
| 観光消費額〔推計〕: | 286,244百万円 | (対前年比 +10.4%) |
| 日帰り: | 169,805百万円 | (対前年比 +13.5%) |
| 宿泊: | 116,438百万円 | (対前年比 +6.2%) |

1 観光客数

県計の動向

平成17年は、愛・地球博や、東海環状自動車道東回りルートの開通による集客効果が大きく当県への観光入り込み客数は、対前年比+8.9%と年間5,000万人の万台を越える大幅な増加となった。

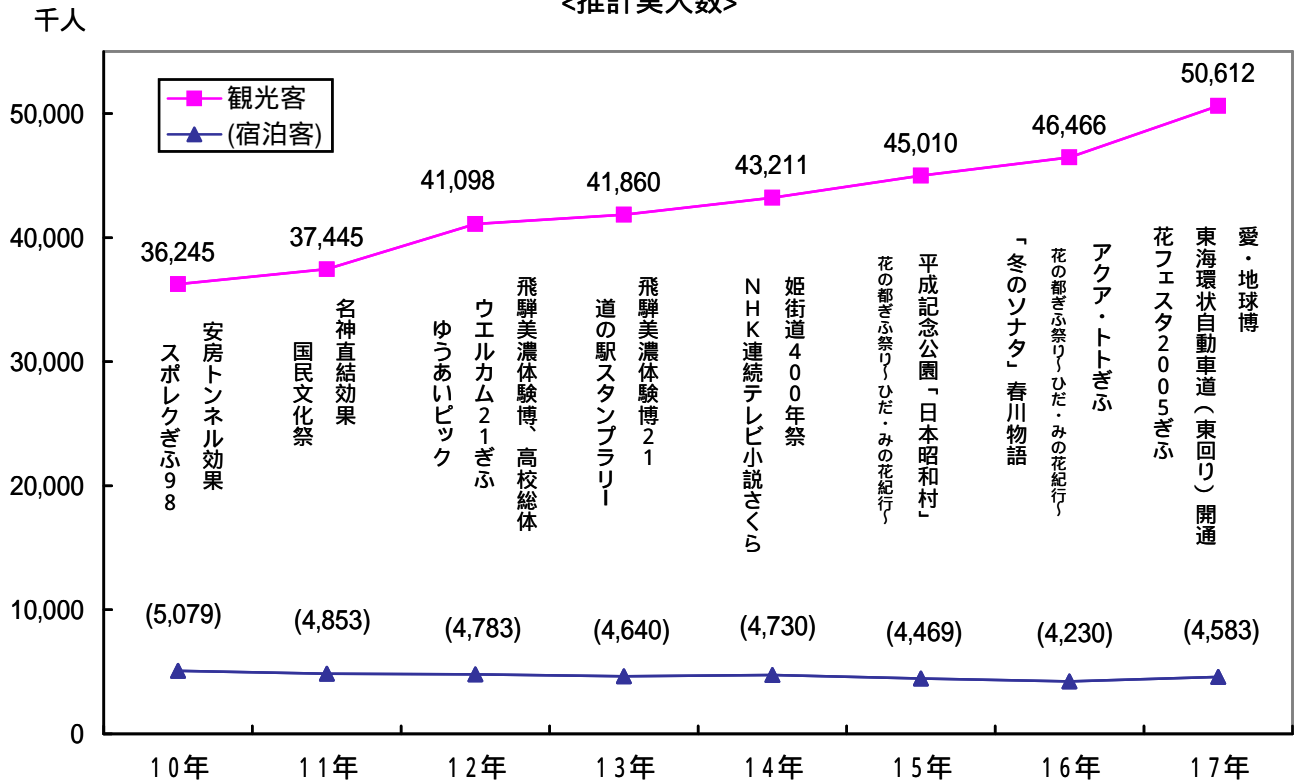
宿泊客数については、3年ぶりに増加に転じ、昨年と比べ353千人(+8.3%)のプラスとなり、ツアー客など岐阜・西濃地区を中心に、愛・地球博の好影響を受けた結果となった。

なお、県内集客数のトップは、昨年に続き河川環境楽園(各務原市)の4,501千人であり、県が「花の都ぎふ」運動の集大成として、花フェスタ記念公園(可児市)で開催した大型イベント「花フェスタ2005」には、期間中(3/1~6/12)142万人余りの人出があった。

また特筆事項としては、平成17年に実施された越県合併により、新たに馬籠宿など旧長野県山口村に点在する観光地点(年間延べ観光客数 約90万人)が岐阜県へ移籍されたことが挙げられる。

年別観光客数の推移

<推計実人数>



(1) 日帰り・宿泊別観光客数

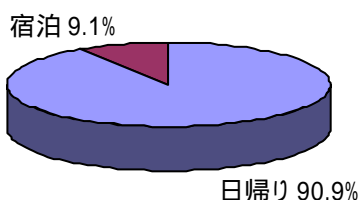
平成17年の観光客数は50,612千人であった。

これを日帰り・宿泊別にみると、日帰り客は46,029千人、宿泊客は4,583千人と日帰り客が全体の90.9%を占めており、比率的に昨年と変動はない(図1、表-1)。

圏域別に見ると、西濃圏域が日帰り客の割合が最も多く(構成比97.6%)、岐阜・中濃・東濃についても日帰り客が9割以上を占める。一方で飛騨圏域は、日帰り客67.2%、宿泊客32.8%と他圏域に比べ宿泊客の割合が高く、県全体の宿泊客4,583千人のうち2,291千人と全体の50%を占めている。

なお、一人当たりの平均宿泊数は、1.50泊である。

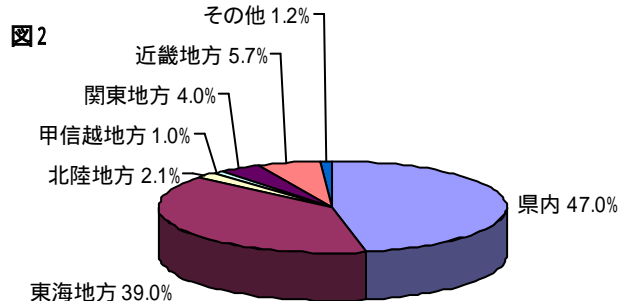
図1



(2) 居住地別観光客数

居住地別にみると、県全体では県内客は23,800千人(構成比47.0%)、県外客は26,812千人(構成比53.0%)で、特に飛騨圏域は県外客の割合が76.3%と高い。

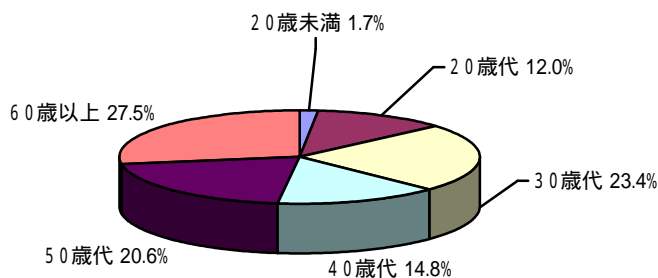
県全体では、県外客のうち7割以上が東海地方からの観光客であり、以下近畿地方、関東地方と続いている。また、東海地方からの観光客の割合が特に多いのは、西濃圏域および東濃圏域である(図2、表-2)。



(3) 男女別・年齢別観光客数

男女別で見ると、男性26,177千人(構成比51.7%)、女性24,436千人(構成比48.3%)と男性が若干多い。年齢別では、60歳以上が最も多く、以下30歳代、50歳代と続いている(図3、表-3)。

図3



| | 日帰り客数 | 宿泊客数 | 観光客数(合計) | 対前年比 |
|------|--------|-------|----------|-------|
| 岐阜圏域 | 11,265 | 952 | 12,217 | 1.9 |
| 西濃圏域 | 10,979 | 275 | 11,254 | 4.3 |
| 中濃圏域 | 9,128 | 551 | 9,679 | +10.2 |
| 東濃圏域 | 9,970 | 513 | 10,482 | +61.6 |
| 飛騨圏域 | 4,688 | 2,291 | 6,980 | 0.1 |
| 合計 | 46,029 | 4,583 | 50,612 | +8.9 |

各圏域および県計の観光客数は、ともに実人数(1人の観光客が圏域内または県内の複数の観光地点を訪れても、圏域内または県内で2泊以上滞在しても、観光客、宿泊客はそれぞれ1人と数える。)を推計したものである。

$$(\text{観光客実人数}) = (\text{観光客延べ人数}) / (\text{平均訪問地点数(単位:箇所)})$$

- 岐阜圏域...観光客数は12,217千人(対前年比 1.9%)と昨年に比べ235千人減少したが、宿泊客数のみでは、同年3月から9月に開催された愛・地球博の好影響を受け、952千人(対前年比+23.8%)と大幅に増加した。特に岐阜市には宿泊を含めて万博とセットで訪れるケースも多く、「長良川鶉飼」「長良川温泉」で多くの観光客を集めた。また、昨年に続き「岐阜県世界淡水魚園水族館アクア・トトぎふ」(各務原市)は好調で「河川環境楽園」全体として、県内最多の4,501千人を集めた。一方で、観光客減少となった要因の一つには『「冬のソナタ」春川物語』(各務原市)によるイベントが終了した関係などが挙げられる。
- 西濃圏域...観光客数は11,254千人(対前年比 4.3%)と昨年に比べ507千人減少した。全体として多くの観光地点で落ち込みとなり、大垣市は昨年開催された「おおがき芭蕉生誕360年祭」からの反動が見られ、海津市では千代保稲荷神社や国営木曾三川公園にて対前年比1割減であった。一方、宿泊客数のみでは275千人(対前年比+43.0%)と増加しており、愛・地球博の影響と見られ、圏域別では最大の増加率となった。なお、西濃圏域は他圏域と比べると、日帰り客の占める割合が最も多い(97.6%)ことも特徴である。(表-1)
- 中濃圏域...観光客数は9,679千人(対前年比+10.2%)と昨年に比べ899千人増加した。観光地点別に見ると、大規模イベント「花フェスタ2005ぎふ」が開催された花フェスタ記念公園(可児市)への入り込み客が、愛・地球博や東海環状自動車道(東回り)の開通効果もあり1,519千人(対前年比+517.2%)と大幅に増えた。一方で「平成記念公園『日本昭和村』」はH15からの開園インパクトの効果が薄れ、2年連続して減少(対前年比 17.9%)した。他地区については、奥美濃地区のスキー場を含め、入り込み客数は概ね前年並みであった。
- 東濃圏域...観光客数は10,482千人(対前年比+61.6%)と昨年に比べ3,996千人増加し、増加人数、増加率とも圏域別では最大となった。大きな要因としては、同年3月に土岐市にオープンした大型商業施設や、越県合併により長野県山口村が中津川市に加わり対象となった馬籠宿や道の駅「賤母」の寄与分が大きく、既存の道の駅でも「志野・織部」(土岐市)や「おばあちゃん市・山岡」(恵那市)にて大きく集客数が伸びた。また「セラミックパークMINO」(多治見市)では、イベントが継続され観光客数が増加した。宿泊客数についても、万博効果があり513千人(対前年比+9.9%)と増加した。また他圏域と比べると、居住地別では、県外客のうち東海地方からの割合が特に高いのが特徴である。(表-2)

- ・ 飛騨圏域...観光客数は6,980千人(対前年比 0.1%)と昨年に比べ7千人減少した。
観光地点別に見ると、高山市では「高山地域」を始め天候や日程にも恵まれた「高山祭」(高山市)などで客数が伸びたが、飛騨市では「飛騨古川 古い町並み」を始め、H16のオープン効果が薄れた「奥飛騨山之村牧場」(飛騨市)など多くの地点で減少となった。白川村、下呂温泉(下呂市)は概ね前年並み。
なお、宿泊客数は前年並みであったが、万博の影響もあり、高山市では外国人宿泊客の増加が目立った。
また他圏域と比べると、観光客数における宿泊客の割合が3割以上と多く(県全体:約1割)(表-1)、県外客の割合も7割以上と多い(県全体:約5割)(表-2)といった特徴があり、鉄道・バスの利用(表-4)や、団体旅行の割合も高い(表-6)。

<参考:圏域別延べ宿泊客数の年別推移>

(単位:千人)

| | 平成13年 | 平成14年 | 平成15年 | 平成16年 | 平成17年 |
|------|---------------|---------------|---------------|---------------|----------------|
| 岐阜圏域 | 1,180 (17) | 1,109 (24) | 1,046 (27) | 1,024 (33) | 1,275 (48) |
| 西濃圏域 | 344 (5) | 318 (5) | 322 (6) | 299 (6) | 426 (29) |
| 中濃圏域 | 806 (3) | 796 (5) | 760 (5) | 757 (6) | 804 (9) |
| 東濃圏域 | 551 (4) | 599 (2) | 633 (2) | 603 (2) | 662 (6) |
| 飛騨圏域 | 4,092 (31) | 4,294 (39) | 3,970 (37) | 3,679 (47) | 3,690 (104) |
| 県計 | 6,973 (61) | 7,116 (75) | 6,730 (77) | 6,361 (93) | 6,856 (195) |

表11(延べ宿泊客数)を年別にまとめたものである。1人の宿泊客が圏域内または県内の2箇所へ宿泊する場合、圏域内または県内で2連泊する場合、宿泊客はそれぞれ2人と数える。
また、下段のカッコ内は外国人の延べ宿泊客数である(内数)。

外国人延べ宿泊客数の動向

外国人の延べ宿泊客数について、平成17年は「愛・地球博」の影響もあり、全圏域で大幅な増加となった。前年を約10万人上回る195,087人(対前年比+108.9%)で、平成12年以降連続して増加している。特に高山市では約5万人の増加となった。

2 観光消費額

平成17年の観光消費額の総額は286,244百万円(対前年比+10.4%)で、そのうち日帰り客分は169,805百万円(対前年比+13.5%)、宿泊客分は116,438百万円(対前年比+6.2%)であった。これを1人当たりの平均消費額で見ると、日帰り客は3,689円(対前年比+4.1%)、宿泊客は25,407円(対前年比 1.9%)であり、宿泊客の平均消費額こそ若干減少したが、宿泊客数が大幅に伸びたことにより全体的な観光消費の増加につながったといえる。

3 経済波及効果(推計)

平成17年の生産誘発額は410,520百万円(対前年比+11.8%)で、就業誘発効果は44,825人(対前年比+10.9%)となった。

<参考>各務原市の製造品出荷額等 429,353百万円(H15 県工業統計調査)
瑞浪市の人口 42,240人(H16.10.1 推計人口)

4 「道の駅」の観光客数

平成17年末現在、県内に「道の駅」は45ヶ所（対前年3ヶ所増）あり、うち観光客数（利用者数）を把握している「道の駅」は40ヶ所。これら40ヶ所の観光客数の合計は、9,321千人であった。

集客数を前年と比較すると、40ヶ所中、増加13ヶ所、減少20ヶ所、同数2ヶ所、新設2ヶ所であり（他3ヶ所は両年が把握できていないため比較不能）、新設・比較不能を除く35ヶ所の利用者数では、8,273千人（対前年比+3.4%）となり岐阜・西濃を除く各圏域では、集客数が前年を上回った。

【参考】調査の概要

本調査は、社団法人日本観光協会の「全国観光統計基準」に基づく。

1. 調査期間

平成17年1月1日から平成17年12月31日まで

2. 調査対象

(1) 観光地点

観光地点の定義

年間観光客が50,000人以上、または季節的観光客が月間5,000人以上

観光地点の分類

観光地点の分類は以下の区分による。

- ・「自然」...優れた自然環境であり、管理者が常駐している景勝地（山岳、高原、湖沼、河川景観、その他鍾乳洞など特殊地形）。
- ・「文化・歴史」...文化財や歴史的建造物を有し、管理者が常駐している施設（城郭、神社・仏閣、庭園、町並み、旧街道、史跡、博物館、資料館、美術館、動植物園、水族館、その他橋、駅、ビル、ダムなど建造物）。
- ・「産業観光」...広範囲な敷地を有し、管理者が常駐している工場、農園、市場、牧場、伝統工芸等の産業拠点（観光農林業、観光牧場、観光漁業、伝統工芸、その他の産業観光施設）。
- ・「スポーツ・レクリエーション」...管理者が常駐している施設。
ただし、小規模の施設、地元利用者が大半を占める施設は除外し、観光利用の対象として取り扱っているものに限定（ゴルフ場、スキー場、テニス場、アイススケート場、サイクリング場、ハイキングコース、キャンプ場、自然歩道・自然研究路、大規模公園、レジャーランド・テーマパーク、複合的スポーツリゾート施設、その他スポーツ・レクリエーション施設）。
- ・「温泉」...温泉あるいは鉱泉の湧出する地域であり、管理者が常駐している施設、地域（温泉、その他入浴施設）。
- ・「買物」...管理者が常駐している施設。
ただし、小規模の施設、地元の利用者が大半を占める施設は除外し、観光利用の対象になっているものに限定（道の駅、複合的ショッピング施設、ショッピング街、朝市・市場、郷土料理店・レストラン）。
- ・「行祭事」...地域住民の生活において伝統と慣行により継承されてきた、定期的に行われる大規模な行祭事（行祭事、郷土芸能、地域風俗）。
- ・「イベント」...常設もしくは特設の会場において、一定の成果を期待して人や金を集めることを目的として行われる大規模なイベント（博覧会、展示会、見本市、コンベンション、国体、花火大会）。

(2) 宿泊施設

宿泊施設の定義

管理者が明確で常駐しており、毎日の利用者数を確実に把握することができ、宿泊に必要なサービスを営利目的で提供する、観光客を宿泊させるための施設。ただし、個人所有の別荘、リゾートマンション、ホームステイ先の個人住居、同伴ホテル・旅館、カプセルホテル等は除外。

3. 調査実施機関

県、市町村（平成17年末時点の市町村の別による）